

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

野崎高校は、昭和 51 年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にする学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。

その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。

具体的には、下の三点に重点を置く。

- ◎生徒の自己実現を最大限に支援する学校
- ◎すべての生徒が安全・安心に生活できる学校
- ◎地域としっかり連携して生徒を育てる学校

人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒指導を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった。」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 生徒の自己実現を図るための学力・体力を育成し、一人ひとりの希望する進路を実現する。

(1) 生徒による授業評価や研究公開授業等を通して、教員一人ひとりの「授業力」を向上させ、「わかる授業」「できる授業」を確立する。

生徒の学習力の向上を図る組織的な体制を構築し、ICT 機器の積極的活用、少人数授業や実技、実習、実験等の創意工夫を行い、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。

※生徒の授業評価において、「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じる」「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じる」という達成度を学年毎に向上させ、3年次にはすべての科目で70%以上にする。

(2) 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成するためのキャリア教育プログラムを実施する。

新カリキュラムの円滑な実施及び効果測定を行うとともに、コースや科目設定の不断の見直しを行う。

地元企業や大学、専修学校等との連携を一層進め、インターンシップや学校訪問等により生徒の進路意識の向上を図る。

※進路決定率を平成 28 年度までに 1%ずつ向上させる。

※学校教育自己診断の「コース選択、科目選択はわかりやすい」「選択したコースに満足している」の項目を平成 28 年度までに 85%以上にする。

※教育産業の診断テストの希望進路未定者の割合を各学年 5%減少させる。(平成 25 年度平均 28%の生徒が未定)

2 高校生として必要な規範意識や社会性、人権尊重の精神等の育成に努め中退防止を図るとともに、すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを推進する。

(1) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装指導、挨拶・マナー指導等を通して、生徒の規範意識や自律心を育成する。

(2) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。

(3) 学校全体で生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させるとともに、部活動、生徒会活動を活性化し、自立心や主体的に行動する態度を養う。

(4) 教職員の資質向上のための研修体制の充実を図る。

- ・ミドルリーダー育成を目的とした研修や教職員の ICT 活用力向上のための研修等を組織的に設定し実施する。
- ・本校独自の「フレッシュパーソンズ研修(新転任教員研修)」を充実させ、OJT を基本とした実践的な研修を計画的に実施する。
- ・府教育センターの「パッケージ研修」の成果を活用し、継続した授業改善の研修を組織的に実施する。

※平成 28 年度までに、学校教育自己診断の「マナーや校訓を守っている」「学校ははじめ、差別に対して適切に指導している」「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」の項目をすべての学年で 85%以上とする。

※平成 28 年度までに、学校教育自己診断の「遅刻指導、頭髪・服装指導は適切である」の項目をすべての学年で 80%以上にする。

※部活動については、平成 28 年度までに、加入率を 45%以上にする。

※生徒の卒業率を平成 28 年度までに、5%向上させる。

※学校教育自己診断の「学校へ行くことが楽しい」「担任以外に相談できる教員がいる」の項目を平成 28 年度までに 70%以上にする。

3 地域と連携した信頼される学校づくりのさらなる推進を行う。

(1) 里山保全ボランティア事業、地域清掃ボランティア活動を核として、地域の小中学校や大学、関係団体等と連携した学校づくりを進める。

(2) 連携の強化のために、PTA、交友会、同窓会の協力を得て、学校行事を充実させる。

(3) 広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に地域へ発信する。

※学校教育自己診断の「学校の情報はホームページやブログでわかりやすく提供されている」の項目を平成 28 年度までに、すべての学年において 70%以上にする。

※首席を中心とした広報チームによる中学校訪問等を実施し、組織的な中高連携を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>生徒：学校行事に対する肯定的評価は高く、一生懸命に行事に取り組む生徒の姿と一致する。また、過去 3 年間の平均で最も評価が高かったのは「規範意識」(H24 85.0%、H25 80.5%、H26 78.3%)であった。特に 1 年生と 3 年生の評価が高いのは本校の特徴である。</p>	<p>第 1 回 6 月 13 日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度の学校経営計画について解説 ・生徒指導部、進路指導部、広報 PT より本校の課題と本年度の目標について説明 ・協議においては、広報活動の重要性、充実・発展の方向性や具体的な方策について熱心な討論を行うことができた。教員による広報活動だけでなく、生徒会や卒業生などのアピールを有効に活用したり、体験的な企画を採り入れていく必要があるなどの意見が交わされた。

府立野崎高等学校

保護者：「野崎高校に入学して良かった」についての肯定的評価が特に高い（学校平均 H24 85.3%、H25 84.5%、H26 86.4%）。その要因として、遅刻指導や授業遅刻指導などの生徒指導に対する評価、担任の親身な対応に対する高い評価、生徒が満足している様子に対する高い評価があげられる。

教職員：家庭との連携、問題行動に対する組織体制、生徒一人ひとりを大切にする教育実践の3項目は100%の肯定的評価であった。一方、カリキュラムの工夫については昨年度より大きく評価が下がっており、今年度検討すべき重要課題の1つと考える。

*分析結果詳細については、WEB ページに掲載

・最後には、協議会委員より学校経営における「外からの視点」と学校協議会の有益性について

第2回 11月21日実施

- ・平成26年度の学校経営計画の進捗状況について解説
- ・授業アンケートを活用した授業改善の取り組み、広報・生徒指導・進路指導の進捗状況について説明
- ・授業改善の取り組みについて、協議会委員より理解を得られるとともに、授業アンケートの結果について高い評価を得ることができた。また、本校の生徒指導の現状についていくつかの疑問点が出されたが、丁寧な説明と改善点を示すことにより理解を得ることができた。

第3回 3月25日実施

- ・平成26年度の学校経営計画進捗状況について最終報告
- ・生徒指導部、進路指導部、広報PT等各担当からの年度末報告。
- ・学校教育自己診断についての分析考察結果報告
- ・平成27年度学校経営計画について説明及び意見聴取
- ・遅刻指導に対する取り組み、広報活動に対する取り組み等について一定の評価をいただいた。学校教育自己診断の分析について、項目によっては生徒と教員また保護者等で評価が分かれている数項目について、さらなる分析が必要ではないかとのこと指摘をいただいた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価															
1 生徒の自己実現のための学力・体力の育成	<p>(1)「授業力」の向上につとめ、「分かる授業」「できる授業」を確立する。</p> <p>ア 授業改善の組織的な取組みと各種評価やテスト等の活用を推進する。</p> <p>イ TT及び少人数展開授業を行うことで、一人ひとりの学習意欲を高める。</p> <p>ウ ICT機器や視聴覚機器の積極的な活用を行う。</p> <p>エ 各種検定受験により生徒に自信と目標を持たせる。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの希望進路の実現をめざす。</p> <p>ア 系統的な野崎版キャリア教育プログラムを実施する。</p> <p>イ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援の後継事業の活用を進める。</p> <p>ウ データの共有や活用等を進め、生徒の学習状況や進路希望を適確に把握し、進学補講等の取組みを充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・「授業力向上ミーティング」を開催し、生徒の授業評価を踏まえた授業改善のあり方について組織的に取り組む。</p> <p>・「野崎版授業観察シート」を用いて授業観察を行い相互に助言を行う。</p> <p>・教育産業の「基礎力診断テスト」を1, 2年で実施し、学習課題を共有するとともに、得点率の向上を図る。</p> <p>イ ・習熟度別クラス編成による少人数展開授業と、TTを効果的に実施し、よりきめ細かな学習指導を行う。</p> <p>・支援を要する生徒や発展的学習に取り組む生徒に対して、TTによる授業を行うことで学習効果を高める。</p> <p>ウ ・ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業への集中を高め、より効果的な授業を行う。</p> <p>・「プレゼンテーション」「ディスカッション」等の生徒が主体的に行う学習の機会を増やす。</p> <p>エ ・授業等との連携により、各種検定(漢字、英語、数学、ワープロ)の受験者数を増やすとともに、合格率の向上を図り、生徒の自信と目的意識を高める。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・1年次からの系統的なキャリア教育プログラムを実施する。</p> <p>教育産業の「基礎力診断テスト」や適性検査等を活用し生徒状況の適確な把握に努め、指導の改善を図る。</p> <p>イ ・事業予算を活用し、外部講師やキャリアアドバイザー等を招聘するとともに、相談会を開催するなど、効果的な活用を進める。</p> <p>・地元企業や大学、専修学校等と連携し生徒の進路意識の向上を図る。</p> <p>ウ ・学年団と進路指導部との情報交換会を一層きめ細かく行い、外部講師等を活用した研修会を開催する。</p> <p>・38期生(2年生)が1年次に実施した進学補講を継続して実施するとともに、39期生(1年生)へも広げていく。</p>	<p>(1)</p> <p>アウ・生徒による授業評価において、生徒の「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じる」「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じる」を67%にする。</p> <p>(H25 65.4%)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすい」という項目を70%以上にする。</p> <p>・教育産業のテスト結果の得点率が50%を超える生徒を各学年の50%以上にする。</p> <p>・教員の相互授業観察を年間3回実施する。</p> <p>イ・該当教科の授業評価の達成度を70%以上にする。</p> <p>エ・各種検定受験者数、合格率を25年度以上にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア・プログラムの実施及び自己診断の「きめこまやかな進路指導」の項目をH25生徒65.7%、保護者70.9%→H26生徒70%、保護者75%にする。</p> <p>また、「選択したコースに満足している」を80%以上にする。</p> <p>・就職内定率を75%以上にする。</p> <p>・進路決定率を平成25年度比で1%向上させる。</p> <p>イ・相談会を年間3回開催する。</p> <p>・目的のない進路未定率を5%減少する。</p> <p>ウ・研修会を年間3回開催する。</p> <p>・考査や休業期間等を活用し進学補講を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>アウ「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じる」67.0% (○)</p> <p>「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じる」65.6% (△)</p> <p>数値は向上しているものの、一部目標に達していない。さらなる取り組みが必要。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業は分かりやすい」63.2% (△)</p> <p>さらなる取り組みが必要</p> <p>・業者結果の指標変更のため55%以上で比較</p> <p>H25.→ H26</p> <p>1年 46.37%→32.4%</p> <p>2年 36.7%→39.5%</p> <p>3年 42.73%→38.73% (△)</p> <p>※平成25年4月実施テスト結果より。今年度の成果は、H26.4月実施テストで検証。</p> <p>・授業公開週間を2度実施、フォローアップ研修の公開授業を、外部2回・内部3回実施、初任者研修にかかる公開授業を4度実施するなど相互授業観察の機会を確保し、また個人でも相互監察を実施。(○)</p> <p>イ 該当教科の授業評価の達成度 (△)</p> <p>習熟度別 61.3%、TT64.6%、少人数 69.7%</p> <p>エ 各種検定受験者数(合格者数) 合格率</p> <table border="1"> <tr> <td>漢字</td> <td>217人(58人)</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>1次 46人(14人)</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2次 15人(12人)</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>9人(4人)</td> <td>44.4%</td> </tr> <tr> <td>ワープロ</td> <td>164人(71人)</td> <td>43.3%</td> </tr> </table> <p>(2)</p> <p>ア「きめこまやかな進路指導」</p> <p>生徒65.2% 保護者69.2% (△)</p> <p>「選択したコースに満足している」</p> <p>生徒69.6% 保護者76.9% (△)</p> <p>・就職内定率(3月末) 86.1% (◎)</p> <p>(学校紹介100%)</p> <p>・進路決定率(3月末) 89.7% (H25 83.3%) (◎)</p> <p>イ・中小企業家同友会や商工会議所と連携した進路講座及び講演会、専修学校と連携した進路講座を実施(○)</p> <p>・目的のない進路未定率 1.1% (○)</p> <p>ウ・研修会は2回開催。進路部と担任団の連携会議は年間7回実施(○)</p> <p>・毎考査ごと及び毎長期休業期間中に補講実施。外部講師との研修会 年間1回 (ベネッセ)</p>	漢字	217人(58人)	26.7%	英語	1次 46人(14人)	30.0%		2次 15人(12人)	80.0%	数学	9人(4人)	44.4%	ワープロ	164人(71人)	43.3%
漢字	217人(58人)	26.7%																	
英語	1次 46人(14人)	30.0%																	
	2次 15人(12人)	80.0%																	
数学	9人(4人)	44.4%																	
ワープロ	164人(71人)	43.3%																	

府立野崎高等学校

<p>2 規範意識や人権尊重の精神の育成と安全で安心して生活できる学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識や自律心を育成する。 ア 集団生活に必要な規範意識とマナー向上を図る。 イ 中退防止に向けて組織的に取り組む。</p> <p>(2) 他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。 ア 生徒の自信や自己有用感を高める活動を工夫する。 イ 「志学」「人権教育」の内容の充実を図る</p> <p>(3) 自立心や主体的に行動する態度を養う。 ア 学校行事の工夫改善 イ 部活動の活性化</p> <p>(4) 教員の研修体制の構築を行う。 ア ミドルリーダーを育成する。 イ OJT を基本とした実践的な研修を計画的に実施する。 ウ 継続した授業改善の研修を組織的に実施する。</p>	<p>(1) ア ・社会的、職業的自立へ向けて、集団生活に必要な規範意識やマナー向上のため、授業規律、朝及び授業遅刻指導、服装頭髪指導等を全校で徹底して行う。 イ ・就学対策委員会、教育相談委員会における情報共有を適切に行うとともに、外部の教育・福祉施設等と連携しながら、生徒の状況を適確に把握、共有することで、中退防止に向けて組織的に取り組む。</p> <p>(2) ア ・自己有用感や他人を思いやる豊かな心をはぐくむために、「人権教育」「志学」を総合的に捉え、1年次の早い時期に「仲間づくり」や「言葉づかい」等、コミュニケーションを豊かにするための人権教育プログラムを実施する。 ・キャリア教育プログラムとの連動により、体験活動を取り入れた人権教育を推進する。 イ ・配慮を要する生徒の教育プログラムをすべての教科で作成し実施する。</p> <p>(3) ア ・生徒の自立心を養い、主体的な行動力を高めるような、体育大会・文化祭、生徒会交流等の行事のあり方を工夫する。 イ ・生徒会が中心となり、部活動や里山ボランティア事業への積極的な参加を促す。 ・生徒の部活動アンケートを生徒会主催で実施し、生徒のニーズ把握を行う。 ・新入生体験入部の取組みを強化する。 ・中学校との部活動交流を行う。</p> <p>(4) ア ・ベテランや中堅教員に対しては、積極的に学校運営に参画させるとともに、分掌、学年等の組織の長として学校を牽引させる。 ・経験の少ない教員に対しては、課題プロジェクトチーム（就学対策委員会、教育相談委員会等）や学校説明会、地域における人権行事や連携イベント等に積極的に指名参加させる。 イ ・本校独自の「フレッシュパーソンズ研修（新転任教員研修）」を、一部外部講師を活用し、より実践的な内容に刷新する。 ・25年度実施した「経営改善プロジェクト研修」を更に充実させる。 ウ ・府教育センターの「パッケージ研修」の成果を活用し、対象教科を決定した後、校内研修、公開授業等を実施する。</p>	<p>(1) ア ・遅刻者数を 3000 名、懲戒者数を 30 名減少させる。 イ ・自己診断の「学校へ行くことが楽しい」「担任以外に相談できる教員がいる」、「学校はいじめ、差別に対して適切に指導している」の項目を 70%以上にする。 ・生徒の卒業率を 3%向上させる。</p> <p>(2) ア ・人権教育をベースとしたキャリア教育プログラムを完成させ新 1 年生を中心に実施する。 ・自己診断の「マナーや校訓を守っている」「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」の項目をすべての学年で 80%以上とする。 イ ・配慮を要する生徒に対して、教材や評価の工夫を行うことを取り入れた教育プログラムを作成する。</p> <p>(3) ア ・生徒主体の学校行事や体験入学会更に推進する。 イ ・部活動の加入率を H25(36.1%) → H26(40%) にする・里山ボランティア参加生徒 H25(18名) → H26(20名)にする。</p> <p>(4) ア ・分掌長、学年主任等を校長の任免制により発令し、運営計画を策定する。 ・ICT 活用力向上研修を実施する。 ・新転任教員は、学校説明会、地域交流行事、里山ボランティア、出前授業等に参加する。 イ ・4 月当初は 2, 3 回放課後に実施する。その後、月 1, 2 回の割合で実施する。 ・改善研修を年間 2 回実施する。 ウ ・対象教科を定め校内研修を年間 2 回、公開授業を 2 回以上実施する。</p>	<p>(1) ア ・遅刻者数 12647 人 (昨年 15011 人) 2364 減 (△) ・懲戒者数 のべ 115 人 (昨年 89 人) (△) イ ・「学校へ行くことが楽しい」 65.9% (82.2%) 「担任以外に相談できる教員がいる」 65.4% (42.0%)、「学校はいじめ、差別に対して適切に指導している」 64.8% (65.7%) (△) ・生徒の卒業率 72.9%</p> <p>(2) ア ・人権教育をベースとしたキャリア教育プログラムを 1 年生から順次実施。今後学年進行ごとにさらに充実させていく。(○) ・「マナーや校訓を守っている」 78.3%(86.4%) 「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」 69.6%(66.9%) (△) イ ・配慮を要する生徒には、個別の指導計画を立てることはもとより、一人一人の状況、またその時々々の体調などの状況に合わせた指導を実施。(○)</p> <p>(3) ア ・体育祭・文化祭はもちろんのこと、体験入学会を映像資料作成や当日の案内など生徒会主導で実施。(○) イ ・部活動の加入率 29.0% (△) ・里山ボランティア参加生徒 13 名 ※今後長期的に見た運営や、教員の後継者確保に向けて、部活動に昇格させた。</p> <p>(4) ア ・校長の任免制により主任部長等の発令を行い経営計画を策定した。(○) ・ICT を活用した研究授業を実施。(○) ・学校説明会 (7 月、11 月、1 月、2 月)、地域交流行事 (5 月、6 月)、里山ボランティア (月 2 回)、中学校への出前授業 (7 月)、地域中学校の学びあい研究 (通年) などに新転任教員が参加した。(◎) イ ・「フレッシュパーソンズ研修」は、中堅教員を研修講師とするなど、双方の育成を図りながら実施。(月 1 回)、また、初任者に対し校内でクラス開き研修を実施するとともに、教育センターのクラス開き研修も受講させ、指導力の向上を図った (◎) ウ ・経験 5 年目の教員 5 名全員が教育センターのフォローアップ研修を受講。うち、2 名が受講者代表の公開研究授業実施。他の 3 名も校内研究授業・研究競技実施。初任者 3 名も外部を含む公開授業・研究競技を開催した。研究協議等によりの授業力の一層の向上を図った。(○)</p>
--	--	--	---	---

府立野崎高等学校

<p>3 地域と連携した信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 地域の小中学校や大学、関係団体等と連携した学校づくり ア 里山保全ボランティア事業、地域清掃ボランティア活動を充実させる。</p> <p>(2) PTA、交友会、同窓会の協力を得て、学校行事等を充実させる。 ア 創立40周年へ向けた取組みの充実を行う。</p> <p>(3) 広報体制を確立し、情報発信を積極的に行う。 ア 首席を中心とした広報チームの充実を図る。 イ 情報発信するエリアを拡大する。 ウ 発信する内容を学校全体で組織的に充実させる。</p>	<p>(1) ア ・25年度は里山ボランティアに地域の小中学校が参加し本校主催の地域風揚げ交流を実施した。26年度も継続実施する。 ・地元保育園や中学校、大阪産業大学等と連携し、緑化活動、地域の清掃活動を積極的に進める。 ・地元の小中学校が中心となった「しじょっこ」等の地域活動に一層積極的に参加する。</p> <p>(2) ア ・創立40周年へ向けて実行委員会を立ち上げ、PTA、交友会（PTAのOB会）や同窓会との協働により、学校行事等の充実を図る。</p> <p>(3) ア ・野崎ブログの定期的更新やホームページの充実、中学校、地域への訪問や郵送による情報発信等を積極的に行っていく。 ・新制服や新学校案内の内容を盛り込んだ、学校案内ビデオ（映像）等を広報する。 イ ・中学校訪問、中高連絡会、体験入学会、学校説明会、授業公開等の広報活動を充実させる。 ウ ・広報活動を学校全体で組織的に行っていくことで、保護者や地域、中学校からの理解と協力を得るとともに、教職員の帰属意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア ・参加生徒の意識の変化を整理・分析する。 ・大阪産業大学との協働地域清掃を立ち上げる。 ・地域担当による教職員への働きかけや実践報告を充実させる。</p> <p>(2) ア ・PTA相互の交流に重点を置いた活動とともに生徒の進の進路支援につながる行事を創設する。 ・里山ボランティア等の地域活動をPTAとともに実施する。</p> <p>(3) ア ・首席を中心とした広報チームの活動を充実する。学校案内ビデオ等もチームが中心となって広報する。 ・ブログは毎週、HPは定期的に更新し生徒向けのコンテンツも充実させる。 ・校長ブログの更なる充実を図る。 イ ・広報活動の回数は15回とし広報先を拡充する。具体的には東大阪地域や四條畷、枚方地域の中学校訪問を実施する。 ・体験入学会を本校生徒参加により実施する。 ウ ・全教員による広報や生徒指導等に係る中学校訪問を実施し、組織的な中高連携を推進する。</p>	<p>(1) ア ・部活動として位置づけることで、生徒の参加に対する意識が高まった。(◎) ・事情により実施できず。(△) ・地域の小中学校・保育園等が参加する協議会で高校の活動を発信した。(○)</p> <p>(2) ア ・PTA相互交流の活動は実施。進路支援につながる行事として、卒業生による進路体験を語る会をPTAとともに実施。(○) ・里山ボランティアにPTA役員を中心に保護者も参加した。(○)</p> <p>(3) ア ・首席を中心とした広報チームが中心となって、ブログや中学校訪問などの発信を行った。学校案内ビデオはチーム作成のものに加え、生徒会生徒によるものも作成。(○) ・ブログは、毎週末更新している。 HPを改定し新年度からのリニューアルに向けて最終段階に入っている。(○)</p> <p>イ ・中学校訪問38校、大東市中学校説明会（8校対象）、四條畷市中学校説明会（4校対象）、田原中学説明会、大東中学説明会、深野中学説明会、進学フェア、体験入学、中高連絡会（2回）などのほか東大阪市新保協への説明会を実施。(○) ・体験入学会は運営や案内を生徒が実施(○) ウ ・直接的な学校の広報の中学校訪問以外に生徒指導連携の中学校訪問や連絡会も広報の一環としてとらえ、組織的な広報活動のとして、全教員が広報活動に参加している。(○)</p>
--------------------------------	--	--	---	--